

Sea of Time, Future Strata

安喜万佐子展 「時の海・明日の地層」

12th - 28th April 2022 FEI ART MUSEUM YOKOHAMA

「風景」によつて問をめぐり、「風景」の中から生成される、安喜万佐子の作品群——

近年の代表作が一同に並ぶ今回の個展では、2020年、ロッタダウソンのイギリスでの取材調査を経て取り組んだ、横幅4.5メートルの大作も初公開されます。

洋の東西を跨いだ古来よりの描画手法を用い、精緻な筆跡を踏まえて独特の時空間を描き出す安喜万佐子の絵画は、観る者の身体にダイナミクスに迫って来るでしょう。この機会に是非ご高覧ください。



沈黙の光景、時の海 (部分) / Silent Reflections, Birds at Dawn (detail) 金箔・顔料・セパレート・描画・デジタル・印刷 90cm x 90cm 2020-2022

沈黙の空 / Obscured Ground (view in Hiroshima)
顔料・顔料・セパレート・描画 / 金箔・セパレート・描画・デジタル・印刷
180cm x 270cm 2004-2018Fellows of Time - hand and
セパレート・描画 / 金箔・セパレート・描画・デジタル・印刷
180cm x 170cm 2021

安喜作品を見ることの幸せ

安喜さんの作品を見る幸せは、どこからくるのでしょうか。この問いに答えてみたいと思います [註1]。

以前、絵の幸せについて考えたことがあります [註2]。そこで得たひとつの答えは、絵が生き続けることの大切さでした。生命と同じく、コントロールできない外部との関わりの中で、常に壊れ続けそして修復され続けていることが絵の幸せなのだ、と。

ですから、生命のように「明確」するもの [註3]、「壊れては修復」し「壊れ、移ろう」もの [註4]に囲まれる安喜作品がわたしの心を打ったのは、ごく自然なことなのかもしれません。

それだけではなく、安喜作品に見られるそうした振動が、コントロールできない他なるものとの関わりから生まれていることも、わたしをとらえました。

たとえば、「消失」(安喜2017) 街シーズの作品は、語られた側の地層(そこに残された長大な時間)とそこに生きた無数の人々の記憶の痕跡)を写し取ったアフォーリズムから生まれています [註5]。また、あえて近代以前の東洋絵画の手法「墨き残し」を踏襲したり(「松林図」[註6])、源氏物語絵巻や洛中洛外図のような日本の伝統的絵画スタイルを取り入れて時空間を多元化したり [註7]、膠タンパクや顔料からには視覚で採取した砂などさまざまな素材を組み合わせたようにしたりも、他なるものの取り込みであると感じます。

そのようにして、「西洋」(東洋)、「時間」(空間、遠く近く) [註8] といった「四隅」を渡り来し、「入れ替えようとする」

秋庭史典

[註2] 安喜作品は、タスコー制像のような「絵画の胎動」[註9] にも、また「静謐なまどろみ」という恍惚感の交差から生まれた「玉響(たまゆら)なる意識」がもたらす「この世ならぬ世界」[註10] にも比喩すべきものとされてきました。またそれは、災害やウイルスなど、コントロールできないものとも生きているはかないわたしたちの明日を考えるうえでも、きわめて示唆に富むものとなるでしょう [註11]。

そうした読み取りができるのは、安喜作品が、顔のない顔の深さをもつもの、見るたびに新しい気づきをもたらす、名づけようのないものだからではないでしょうか。そこには、瞬きから地球の生成にいたるまで、さまざまな時間が積み重ねられています。そんな安喜作品を見ることのできる幸せを、たくさんの方に感じていただきたいと思います。

[註1] ただしその際、作品をわたしの思考に照らし当てることには、以下の先験からあたりに外れる要素のことは留意し、あたし自身の枠組みに委ねていくことにいたします。

文庫

[註2] 秋庭史典 (2020) 「絵の幸せ——シタタリとムネ」 ムネズキ書房

[註3] 安喜万佐子 金箔・顔料・セパレート (2020) 安喜万佐子 Chuan from Odo, Odo from Chuan / photo 34

[註4] 河村光 (2021) 「シタタリとムネ——安喜万佐子の風景へ」

[註5] 木下民安 (2021) 「明確する風景——安喜万佐子の『松林図』をめぐって」

[註6] 安喜万佐子 (2020) 「安喜万佐子の絵画——一人て絵画の地層を築く」

[註7] 安喜万佐子 (2021) 「玉響なる意識——ひとつの安喜万佐子」

[註8] [註9] [註10] [註11] はすべて [註2] に参照

(あ)ばふみのう 名古屋大学教員・文学部美術学



アフォーリズムで地層を写す (コピー) 2021/3

FEI ART MUSEUM YOKOHAMA

〒221-0835 横浜市神奈川区根岸町3-33-2 横浜根岸ビル1 階

TEL: 045-411-5031 E-MAIL: www@feimuseum.jp

3 Chome-33-2 Tsunagicho, Kanagawa Ward, Yokohama, Kanagawa 221-0835

<http://www.f-e-i.jp/>

Masako Yasuki Exhibition

安喜万佐子展
「時の海・明日の地層」

Sea of Time, Future Strata

2022年4月12日(火)~4月28日(木)

10:00~19:00 月曜休館

12th - 28th April 2022 closed Monday

FEI ART MUSEUM YOKOHAMA



安喜万佐子 Masako YASUKI

京都精華大学大学院美術研究科修士課程修了

2001 英国エジンバラ芸術大学 招待作家（大阪府芸術家派遣事業）

2005 米国スミス大学 滞在研究員（文化庁派遣芸術家海外派遣）

2020 英国ロンドン芸術大学 招待作家

1999 / 2002 「VOCA 展」〈上野の森美術館・東京〉

2004 「Confronting Tradition」Smith College 美術館・米国

2005 「City-net Asia」〈ソウル市美術館・韓国〉

2013 「Inverse Perspective Project」モスクワアビシエンシナル特別
プログラム〈モスクワ現代美術館・ロシア〉

2020 個展「Chaos from Order - 時の海」〈京都場〉・「Order
from Chaos - 明日の地層」〈オキナワ・14・京都〉

2021 「国定のある芸術祭 2021」〈国定公園・和歌山〉

2022 「かがふれて vol. 2 - Mad for Times」〈オキナワ・14・京都〉

他、国内外にて個展・グループ展、多数

Master of Arts (Fine Arts), Kyoto Seika University

2001, Guest artist, Edinburgh College of Arts (UK)

through ART-EX, Osaka Prefectural Government.

2005, Guest researcher, Smith College (USA)

through the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

2020, Guest artist, University of the Arts London (UK)

1999, 2002, VOCA - Vision of Contemporary Art Japan,

Ueno Royal Museum, Tokyo

2004, Confronting Tradition, Smith College Museum of Art, USA

2005, City-net Asia, Seoul Municipal Museum, South Korea

2013, Moscow Biennial Special Program

2018, Contemporary Art in Japan, RuArts Gallery, Moscow

2020, Masako Yasuki Exhibition Chaos from Order, Order from

Chaos, Kyoto-bu + galerie 14 (Kyoto)

2021, Art Festival with National Treasure, World Heritage

Ninnaji Temple, Kyoto

Plus other domestic and international exhibitions.



時の海・明日の地層（部分）| Sea of Time, Future Strata (detail)

アクリル・油彩・絹布・160x160cm・2022

170cm x 90cm, 2022